

まえがき

第1章 二〇世紀社会主義——その歴史的使命の終焉—— 1

- 一 歴史的危機の社会主義体制—— 2
- 二 二〇世紀社会主義の原型——戦時社会主義—— 6
- 三 一元的支配の構造——権威主義と温情主義の体制—— 10
  - (1) 啓蒙的専制—— 10
  - (2) 規範と政策—— 12
- 四 管理の空洞化——「平時社会主義」の基本問題—— 17
  - (1) 計画の失敗—— 18
  - (2) 一元支配の虚構—— 21

第2章 東欧型社会主義の成立過程 23

- 一 歴史的検討の現代的意義—— 24
- 二 ハンガリーの三つの革命—— 28
- 三 第二次大戦から戦後統制経済の確立—— 32
- 四 ソ連型社会主義システムの構築—— 35
  - (1) 「三カ年経済計画」から「人民共和国」の成立—— 36
  - (2) 急激な国有化と制度改革——ソ連型管理システムの導入—— 38
- 五 「第一次五カ年計画」——戦時社会主義体制—— 42
- 六 ソ連型システムの功罪—— 45

第3章 ポスト・スターリン時代の経済改革 51

- 一 ナジ首相埋葬式からニエルシュ党首へ—— 52
- 二 脱「スターリン型」——戦時社会主義」の混乱—— 56
- 三 経済メカニズム改革への模索——五〇年代の問題意識—— 60
  - (1) 二つの論争論文—— 61
  - (2) コルナイの問題意識—— 64
  - (3) 政府経済委員会の報告—— 65
- 四 一九六八年経済改革—— 67
  - (1) 時代の転換——五〇年代から六〇年代へ—— 67
  - (2) ニエルシュの経済改革—— 70

第4章 新経済メカニズムの構想と現実 77

- 一 フランシュ訪問とカードル埋葬——カードル時代の終焉—— 78
- 二 新経済メカニズムの構成要素—— 80
  - (1) 生産・配分指令システムの廃止—— 82
  - (2) 中央管理機関の役割変更—— 84
  - (3) 価格形成規制—— 87
  - (4) 利潤形成規制—— 89
  - (5) 資金形成規制—— 92
  - (6) 信用形成規制—— 95
  - (7) 私的営業・副業の規制—— 98

三 新経済メカニズムの機能と現実 100

- (1) 所有と市場——古くて新しい問題—— 102
- (2) 「国家独占」の温存——企業家精神の不在—— 103
- (3) 信用経済化への躊躇——非信用経済の矛盾—— 105
- (4) 「規制の呪縛」——頻繁なルールの変更—— 107
- (5) 即目的「マクロ的調整」——ヴィジョンの欠如—— 108

第5章 「国家独占」社会主義の失敗 113

- 一 累積債務でみた東欧の二つの型—— 114
- 二 戦時社会主義から「国家独占」社会主義へ—— 119
  - (1) 「国家独占」社会主義の二つの型—— 119
  - (2) 「国家独占」社会主義の経済力—— 123
- 三 新経済メカニズムの矛盾と限界—— 127
  - (1) 国内均衡の達成——不足の解消—— 129
  - (2) 継続する対外不均衡——成長と循環—— 131
  - (3) トリレンマイの経済環境—— 135

第6章 複数主義と分権の時代 141

目次

- 一 政治改革への胎動 143
  - (1) 「転機と改革」以後 143
  - (2) 党全国協議会をめぐる確執 144
- 二 社会主義的複数主義と一党制の矛盾 148

xii

- (1) 政治改革の出発点 148
- (2) 労働者党の守勢と内部対立 150
- (3) 複数政党制への躊躇とマロースの失点 154
- (4) 五六年再評価と複数政党制の決断 157
- 三 複数主義の実現と権力の分散 161
  - (1) 「結社・集会の権利」の法制化 161
  - (2) 所有における複数主義 163
  - (3) 複数主義と分権化の焦点 169

第7章 歴史的過渡期の共産党 175

- 一 一元支配の必然性と崩壊の条件 178
- 二 「民主集中制」の現実と歴史的限界 181
- 三 共産党における複数主義：プラットフォーム形成の自由 184
  - (1) 党内民主主義の手段 185
  - (2) プラットフォーム実現の要件 187
- 四 党の分裂と在野勢力の成長 189
  - (1) 党の分裂状況 189
  - (2) 三者協働と在野勢力の成長 192
- 五 共産主義から社会民主主義へ 197
  - (1) 党名変更・事実上の解党 197
  - (2) ハンガリー社会党の性格 199
  - (3) 新たな組織原則 203
  - (4) 新たな政治体制の構案 207

第8章 過渡期の経済政策 215

- 一 深まる経済危機 216
- 二 経済改革委員会の出発テーゼ 218
  - (1) 基本方向の確立 220
  - (2) 目標とすべき経済システム 221
  - (3) 所有改革 222
  - (4) 国家的管理と計画の改革 224
  - (5) 経済政策の転換 226
- 三 開放化と市場化の基本課題 228
  - (1) 開放化の意義 229
  - (2) コミュン貿易の現状と改革の展望 230
  - (3) 市場化の条件と課題 232

結びにかえて 237

カパー・デザイン原案、カマトロカシム・ヤイノシキ  
装幀：柴田廣